

「ラグビー部」

大量八人の諸先輩を送り出した我がラグビー部は、残雪が遠方の高峯に輝く新春の四月我等部員一同は期待と抱負を胸に秘めて強化合宿に入った。

部員は伝統ある岩手高校のラグビーの再興に火と燃える気魄で連日きびしい練習にはげみ続けてまいりました、我々一同にとって「優勝」という事はどんなに尊いものでありましよう、「今年こそは」の合い言葉のもとに練習に練習を重ねました。

今ここに一年間を顧みて見ますれば盛岡市民体育大会は、終り高体連にそなえて連日練習を重ね続けました。

高体連には準決勝で第二の宿敵である黒沢尻工業高校と対戦しました、我校は前半から有利でしたが、両チームとも得点を許さず抽選にもちこまれてしまいました。我がチームの努力と練習が神に通じたのか勝利を得る事が出来ました。

思えば目標を勝利におき石桜精神の育成を計り、ここ十数年間夢にまで見た全国優勝を目ざし練習を励みました。勝つための要素を絶えず研究して人間的な成長と技術上の進歩に

たゆまぬ努力を払う限り、必ずや勝利の女神は我々に味方してくれるものと信じて年追う毎に部員の結束も強固となり技術上の向上を計ると共に人格形成を目指して連日努力を続けました。そしてスポーツマンでなければ味わえない練習の苦しさ満足感研究心の伴った練習と強い精神力を兼ねて、そなえれば必ずや優勝も難事ではないという事を部員一人一人が強くかみしめてまいりましたが、思いもよらぬ事が部員一同の頭の上にもち上ってまいりましたそれは、高三のY君他二名が退部するという話しからはじまるのです。退部という事はチームにとって一番つらい事なのです。正当な理由ならば理解もできるのですが、今日までレギュラーとして活躍してきた者が一人でも、欠けるといふ事になれば新たにチーム編成をしなければなりません。これが団体生活の苦しい点かもしれません。一人一人の気持が一つになってこそチームの編成が出来るのです。

こういう話が部長である戸嶋先生の耳に入り先生の怒りにふれ、事態はますます悪化していき、最後には高三全部員が退部という終末になってしまいました。

戸嶋先生や諸先輩方には本当にかたみのせま

い思いをいたさせまして申し訳なく思っております、又全生徒諸君にもお詫び申し上げます。こういう事態をひきおこしたのもみな私のいたらなかった事と思っております。今我々は卒業の日を間近にし春以来の試合や練習の苦しかった当時の事が色々と追憶されます。優勝の栄冠も得ず去ることは全くさびしい思いであります。しかしながらいつの日か後輩諸君によって果される事を、信じながら我々は去って行きます。我々もこの精神を忘れず社会に出た後も一生懸命社会のためにつくすつもりです。

最後に我々をこれまで育てて下さいました、戸嶋先生諸先輩の方々に感謝致します。

(長谷川記)